

診療科目 ● **がん総合医科学（臨床腫瘍科）**

プログラム責任者：市川 靖史

| 附属病院 | 臨床腫瘍科 |
|------|----------------------|
| 主任教授 | 市川 靖史（臨床腫瘍科・乳腺外科部長） |
| 教授 | 幡多 政治（放射線部、放射線治療部部長） |
| 教授 | 宮城 悦子（外来化学療法センター長） |
| 教授 | 窪田 賢輔（内視鏡センター長） |
| 講師 | 小林 規俊 |
| 講師 | 後藤 歩 |
| 助教 | 徳久 元彦 |

本プログラムの特徴

癌治療は外科的切除、放射線治療、薬物治療、緩和治療のコラボレーションにより最良の予後が期待される。日本においてはいまだ端緒に就いたばかりの臨床腫瘍科学、腫瘍内科学を基礎的・実務的に作り上げていきたいというやる気のある医師、厳しい予後が予測される患者さんに合理的な視点を有すると同時に、優しい診療を提供できる「こころ」を持った医師を育てていきたい。

当科では薬物による治療を中心に総合的な癌診療能力を身につけ、同時にエビデンスを創出し、それに従った診療を行うための臨床試験に対する知識と技術を身につける。加えてがんに対する放射線治療の技能も身につける。診療の内容は進行再発癌に対する化学療法、放射線化学療法から術後補助化学療法、術前のネオアジュバント療法と多彩であり、同時に毒性の高い癌治療における支持療法の技術を身につける。集学的な医療を展開するために、外科、放射線科、緩和ケア科など多彩な診療科とのコミュニケーション能力を身につけていく。

がんの研究は、患者さんの同意のもと提供を受けた血液・組織を用いた基礎的研究や患者さんの同意のもと施行される新たな診断・治療法の臨床的研究など、高い倫理観を要する研究者が必要であり、当科ではこのような面においても指導を行っている。また海外の医師あるいは患者とのコミュニケーションのための英語教育に関しても、海外への学会、研修への参加などを含めて積極的に指導している。専門医とは現行のガイドラインを着実に実行する能力にとどまらず、がんに対する新たな着眼を常に模索し、実現する能力を兼ね備えるべきであるという信条から、様々な研究機関とのコラボレーションに参加できる機会を設ける。当院は現在米国テキサス大学 MD アンダーソンがんセンターと覚書を締結しており、同施設への研修、留学も視野に入れた研修が可能である。神経内分泌腫瘍に関してはスイスパーゼル大学と共同研究で RI 内容療法を行っており、交流がある。

内科的な観点からのアプローチが主体となるが、腫瘍外科医としての carrier を身につけたい医師の program も併せ持つ。

目 標

主として食道、胃、大腸、GIST、肝、胆、膵の消化器がん、乳癌、原発不明ながんを中心とした、がんの診断・治療の能力を身につける。同時にさまざまながんの、肝・骨・肺・脳などの重要臓器転移症例に対する治療法を身につける。希望があれば消化器診断・治療のための内視鏡、超音波下での手技に関しても学ぶためのコースが準備されている。同時に緩和ケアチームに所属し、がん治療の支持療法、疼痛緩和の手技、精神腫瘍学を身につけ、一般病院での腫瘍医としてコンサルテーションを受けることが可能な能力を身につける。内科専門医、がん薬物療法専門医の取得を目標とする。

目標とする学会認定専門資格

| | |
|-------------------|-------------|
| 日本内科学会専門医 | （日本外科学会専門医） |
| 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 | 日本がん治療認定医 |

主な協力病院

国立病院機構横浜医療センター、横浜市立市民病院、藤沢市民病院、横須賀市立市民病院、市立伊東市民病院、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜掖済会病院、NTT 東日本関東病院、済生会若草病院、湘南記念病院、聖路加国際病院

| 診療科のホームページ URL | 担当者・連絡先 |
|---|---------------------------|
| http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yoncol/ | 市川 靖史 TEL:045-787-2623 |

診療科の実績

当施設は日本がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会をはじめとする多くの癌関連学会の認定施設であり、当科においてがん薬物療法専門医、がん治療認定医を擁している。国立がんセンターでのレジデント、研究職経験者もあり、太いパイプを有する。臨床腫瘍科では年間 5,000 件余の抗がん剤治療を外来で行っており、その内訳は大腸癌、乳癌、膵臓癌、胆道癌、胃癌、肝臓癌と多岐にわたる。また年間 50 症例ほどの食道癌に対する放射線化学療法、10 例ほどの原発不明癌に対する治療を行っている。神経内分泌腫瘍に関してはスイスパーゼル大学との提携治療を知り、年間 25 症例ほどの患者さんがお見えになり当科で治療を受けている。診療科名は、臨床腫瘍科・乳腺外科であり、乳腺疾患に関しては外科医との連携の中化学療法を行っている。現在注目されている大腸癌肝転移では切除を目標とした様々な術前化学療法の開発と臨床研究を行い、予後の向上に努めている。様々な多施設臨床研究にも参加しており、米国癌学会（AACR）、米国癌治療学会（ASCO）、欧州癌学会（ESMO）での発表を行っている。

指導医から一言

臨床腫瘍科、腫瘍内科は日本ではまだ出来て間もない臨床科です。多くの癌治療に関連する科や職種と連携を行うコミュニケーションセンスや、「治らない」癌を抱える患者とその家族に対するやさしさとそれでもあきらめない気持ちを持ちつつ、サイエンティフィックな治療を追求することが必要です。将来緩和治療医を目指す方も、まずは腫瘍内科医として抗癌治療の真髄を学んでいただきたい。若い方々の力に期待いたします。